

特★集

今こそ知りたい！アメリカの

銃規制 & 中絶問題

日本に住む私たちにはあまりピンと来ないかもしれませんが、
銃規制と中絶はアメリカを二分する重大な問題です。

今年の5月にはテキサス州で銃の乱射事件が発生し、
6月には連邦最高裁で「ロー対ウェイド判決」が覆されました。
アメリカでは今何が起き、何が話し合われているのでしょうか。
成蹊大学の西山隆行先生と一緒にアメリカ政治や歴史の流れ、
そして命にまつわる哲学をひも解きながら両問題を解説します。

監修・執筆：西山隆行（成蹊大学教授）

イラスト：児島衣里



今こそ知りたい!

銃規制 & 妊娠中絶問題の争点

中絶・銃規制にまつわる議論の背景には
キリスト教の宗教観や「人とは何か」といった生命倫理、
また憲法で定められた権利の解釈など、さまざまな要素が絡み合っています。
各論争について、それぞれの立場の主張をまとめました。



Pro-Choice (中絶擁護派)

01

生命

生物学的な「ヒト」(human being)と道徳的な権利を持つ「ひと」(person)は区別され、胎児は生物学的に「ヒト」であっても、十分な精神活動を行う権利を持った「ひと」ではない。したがって中絶は殺人に該当しない。

02

権利

妊娠・出産は女性のプライバシーであり、自己決定に基づいて判断されるべき事象である。他人や社会、ひいては国家が口を出すべき領域ではない。

03

衛生

安全に中絶する権利が保障されなければ、多くの女性が非合法で危険な中絶を試みる。結果として多くの女性が死亡したり、不妊になったり、健康を害したりする。

04

性差

「個人」や「平等」「自由」などの近代的市民的な価値を女性が実現するには、生殖からの自由がその大前提となる。中絶の権利は女性にとって性的な自由の保障であり、伝統的に男性が支配する家族生活からの解放や、性別による格差解消につながる。

Abortion

Pro-Life (中絶反対派)

01

生命

価値ある将来を持っているという点では私たちと胎児の間に何の違いもないので、胎児を殺すことは私たちを殺すことと全く同じくらい不正である。

02

権利

自己防衛による殺人を正当化するには、相手が自分の生命を脅かしていることに加え、相手がそれを意図していること、そして意図していることへの責任が必要である。しかし中絶のケースでは、胎児には母親を殺そうとする意図はなく、責任もない。

03

宗教

中絶は「汝殺すなかれ」というキリスト教の教えに背く行為であり、いかなる理由や状況の下でも絶対的に悪である。道徳的にだけでなく、法的にも悪として規定されるべきだ。

04

家族

中絶反対派にとってセックスとは快楽よりも生殖のためのものである。結婚し、性交すれば親になるのは自然な成り行きである。中絶は結婚と性交・生殖の結び付きを弱め、婚姻制度や家族の在り方を脅かす危険性を持つ。